＜追補＞
「ココデル虎の巻」
追い込みパック（第四版）
全国共通模試、ブロック別模試[問題]

2018 年 3 月改訂「試験問題の作成に関する手引き」対応

ここでは、2018 年 3 月に改訂された『試験問題作成に関する手引き』で、模擬試験に影響する設問や解説をまとめています。
全国共通模試のほか、ご自身のお手元のブロック別模試を確認し、下記問題番号についてはこちらの追補にある問題と差し替えてください。

※関係する問題

＜全国共通模試＞問 2、問 13、問 46、問 49、問 79、問 91、問 100、問 116
＜北海道・東北＞問 2、問 12、問 42、問 51、問 68、問 78、問 80、問 89、問 96、問 98、問 110、問 112
＜首都圏＞問 3、問 6、問 12、問 47、問 49、問 79、問 91、問 104
＜関東甲信越＞問 76、問 91、問 98、問 108
＜北陸・東海＞問 3、問 11、問 50、問 51、問 77、問 90、問 99、問 110
＜近畿＞問 2、問 5、問 76、問 79、問 90、問 98、問 100、問 114
＜大阪＞問 13、問 48、問 49、問 70、問 98、問 108
＜奈良＞問 17、問 39、問 64、問 67、問 78、問 89、問 90、問 100
＜中国＞問 2、問 10、問 47、問 77、問 79、問 89、問 98、問 99、問 110
＜四国＞問 2、問 3、問 13、問 45、問 66、問 68、問 90、問 99、問 108、問 111
＜九州・沖縄＞問 2、問 38、問 55、問 64、問 93、問 99

※問題、解説ともに下線部が修正部分です。
※解説のみの修正であっても、掲載しています。

ブロック別模擬試験＜全国共通模試＞

＜I. 医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問 2

医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との和で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。

ｂ　新規に開発される医薬品のリスク評価は、臨床試験における安全性の基準である GLP（Good Laboratory Practice）に準拠して、薬効-薬理試験や一般薬理作用試験などが行われる。

ｃ　新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化（ハーモナイゼーション）制定の流れの中で実施されている。

ｄ　医薬品に対しては製造販売後の調査及び試験の実施基準として GPSP（Good Post-marketing Study Practice)と製造販売後安全管理基準として GVP(Good Vigilance Practice）が制定されている。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 13
高齢者に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　高齢者は、年齢から医薬品の使用に対するおおよそのリスクを判断しやすいものである。
ｂ　高齢者は持病（基礎疾患）をかかえていることが多いが、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなることはない。
ｃ　高齢者は、内服薬をのどに詰まらせやすく、さらに、医薬品の副作用で口渇を生じて誤嚥を誘発しやすくなることがある。
ｄ　高齢者は、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合や、細かい文字が見えづらく、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合がある。

1.　ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．正　　ｄ．誤
2.　ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．誤　　ｄ．正
3.　ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．誤　　ｄ．正
4.　ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．正
5.　ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．誤

＜III. 主な医薬品とその作用＞
問 46
眠気を防ぐ薬とカフェインに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　眠気防止薬におけるカフェインの 1 回摂取量はカフェインとして 200mg、1 日摂取量はカフェインとして 500mg が上限とされている。
ｂ　カフェインは、尿量の減少をもたらす作用がある。
ｃ　カフェインには胃液分泌抑制作用があり、その結果、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがある。
ｄ　カフェインには、作用は弱いながら反復摂取により依存を形成するという性質があるため、「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」という注意喚起がなされている。

1.　ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．誤　　ｄ．誤
2.　ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．誤　　ｄ．正
3.　ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．正　　ｄ．誤
4.　ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．誤　　ｄ．正
5.　ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．正

問 49

呼吸器官に作用する薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　去痰成分であるブロムヘキシン塩酸塩は、分泌促進作用、溶解・低分子化作用、線毛運動促進作用を示す。

ｂ　エチルシステイン塩酸塩は、たんの中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。

ｃ　カルボシステインは、粘液成分の含量比を調整し、たんの切れを良くする。

ｄ　カンゾウについては、グリチルリチン酸による抗炎症作用のほか、気道粘膜からの粘液の分泌を促す等の作用も期待されるが、どのような人が対象であっても、1 日最大服用量がグリチルリチン酸として 1g 以上となる製品は、長期連用を避ける。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 79

一般用検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　尿糖・尿タンパク検査薬は、その結果をもって直ちに疾患の有無や種類を判断することはできない。

ｂ　通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

ｃ　尿糖・尿タンパク同時検査の場合、就寝前の尿を検体とする。

ｄ　尿糖検査の場合、食後 1～2 時間等、検査薬の使用方法にしたがって採尿を行う。尿タンパクの場合、激しい運動の直後の検査は避ける必要がある。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

＜Ⅳ. 薬事関係法規・制度＞

問 91

保健機能食品等の食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　特定保健用食品は、特別用途食品制度と保健機能食品制度の両制度に位置づけられている。

ｂ　特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する申請を行えばよく、許可や承認は必要ない。

ｃ　栄養機能食品の栄養成分の機能表示に関しては、消費者庁長官の許可は要さないが、その表示と併せて、当該栄養成分を摂取する上での注意事項を適正に表示することが求められている。また、消費者庁長官の個別の審査を受けたものではない旨の表示も義務づけられている。

ｄ　特定保健用食品と栄養機能食品を総称して「特別用途食品」という。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 100
医薬品販売における法令遵守に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　一般用医薬品の販売広告としては、薬局、店舗販売業等において販売促進のため用いられるチラシや POP 広告等も含まれる。
ｂ　漢方処方製剤の効能・効果は、配合されている個々の構成生薬の作用を個別に挙げて広告などで説明することが適当とされる。
ｃ　医薬品の使用前・使用後に関わらず図画・写真等を掲げる際には、効能・効果等の保証表現となるものは認められない。
ｄ　医薬品を懸賞や景品として授与することは、原則として認められている。

1. ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．誤　　ｄ．正
2. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．誤
3. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．誤　　ｄ．正
4. ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．正　　ｄ．誤
5. ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．正

＜V. 医薬品の適正使用・安全対策＞
問 116
使用上の注意の「してはいけないこと」として、「本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を使用（服用）してぜんそくを起こしたことがある人」が記載される成分の組み合わせはどれか。

ａ　イブプロフェン
ｂ　ブロムヘキシン塩酸塩
ｃ　アスピリン
ｄ　ケトチフェンフマル酸塩

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｃ）
3. （ａ、ｄ）
4. （ｂ、ｃ）
5. （ｃ、ｄ）

ブロック別模擬試験＜北海道・東北＞

＜I. 医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問 2

医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化（ハーモナイゼーション）制定の流れの中で実施されている。

ｂ　新規に開発される医薬品のリスク評価は、臨床試験における安全性の基準である GLP（Good Laboratory Practice）に準拠して、薬効-薬理試験や一般薬理作用試験などが行われる。

ｃ　医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積で表現される用量－反応関係に基づいて評価される。

ｄ　ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的に GVP（Good Vigilance Practice ）が制定されている。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤

問 12
高齢者の医薬品の使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として 75 歳以上を指す。
ｂ　高齢者の基礎体力や生理機能の衰えの度合いは、個人差が大きいため、年齢のみから一概にどの程度医薬品のリスクが増大しているかを判断することは難しい。
ｃ　一般に、高齢者は生理機能が衰えつつあり、若年時と比べて副作用を生じるリスクが低くなる。
ｄ　高齢者は、のどの筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｃ）
3.（ｂ、ｄ）
4.（ｃ、ｄ）

＜III. 主な医薬品とその作用＞
問 42
かぜ薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　抗コリン成分は、鼻汁分泌を抑えることを目的として配合される。
ｂ　アドレナリン作動成分は、痰の切れを良くすることを目的として配合される。
ｃ　チペピジンヒベンズ酸塩は、咳を抑えることを目的として配合される。
ｄ　トラネキサム酸は、鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげることを目的として配合される。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
3. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
5. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．誤

問 51（※一部削除）
含嗽薬に配合される成分の相互作用又は副作用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　クロルヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬により、まれにショック（アナフィラキシー）~~、アナフィラキシー様症状~~のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。
ｂ　含嗽薬の場合、配合成分にアレルギーの既往歴がある人でも使用することができる。
ｃ　ポビドンヨードが配合された含嗽薬では、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性があるほか、口腔粘膜の荒れ、しみる、灼熱感、悪心（吐き気）、不快感の副作用が現れることがある。
ｄ　ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミン C 等の成分と反応すると殺菌作用が増強することから、ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬は、そうした食品を摂取した直後の使用や混合使用が効果的である。

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｃ）
3.（ｂ、ｄ）
4.（ｃ、ｄ）

問 68（※一部削除）
ヨウ素系殺菌消毒剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ヨウ素による酸化作用により、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
ｂ　外用薬として用いることにより、ヨウ素に対するアレルギーの既往歴のある人が使用しても、ショック（アナフィラキシー）~~やアナフィラキシー様症状~~のような全身性の副作用が生じるおそれはなくなる。
ｃ　ヨウ素の殺菌力はアルカリ性になると低下するため、石鹸等と併用する場合には、石鹸分をよく洗い落としてから使用することが望ましい。
ｄ　ヨードチンキは、マーキュロクロム液との同時使用により殺菌作用が増強される。

1. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤

問 78
消毒薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

1. トリクロルイソシアヌル酸は、金属腐食性が比較的抑えられているため、プールの殺菌・消毒に用いることが可能である。
2. クレゾール石鹸液は一般細菌類及びすべてのウイルスに対して、殺菌消毒作用を有している。
3. 次亜塩素酸ナトリウムは、吐瀉物や血液等が床等にこぼれたときの殺菌消毒にも適しているが、有機物の影響を全く受けないため殺菌消毒の対象物を洗浄してもその効果に差はない。
4. イソプロパノールはウイルスに対する不活性効果がエタノールよりも高い。

問 80
一般用検査薬に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　いかなる検査薬においても、擬陰性・擬陽性を完全に排除することは困難である。
ｂ　尿糖検査の場合、原則として食後（1～2 時間等、検査薬の使用方法に従う）の尿を検体とする。
ｃ　尿糖検査薬を取扱う際は、長時間尿に浸しておくことが重要である。
ｄ　一般に妊娠検査薬は熱に弱いため、冷蔵庫内に保管する。

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｃ）
3.（ｂ、ｄ）
4.（ｃ、ｄ）

＜IV. 薬事関係法規・制度＞
問 89
保健機能食品等の食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　特別用途食品は、消費者庁の許可のマークが付されている。
ｂ　特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する申請を行えばよく、許可や承認は必要ない。
ｃ　特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品を総称して「保健機能食品」という。
ｄ　無承認無許可医薬品の摂取によって重篤な健康被害が発生した事例が知られており、厚生労働省、消費者庁や都道府県等では、因果関係が完全に解明されていなくとも、広く一般に対して注意を喚起して健康被害の拡大防止を図るため、製品名等を公表している。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 96
特定販売に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　特定販売を行える医薬品は、一般用医薬品または要指導医薬品とされている。
ｂ　特定販売は、薬局や店舗販売業でなくても認められる。
ｃ　特定販売を行うことについて広告をするときは、インターネットを利用する場合はホームページに、現在勤務している薬剤師又は第十五条第二項の登録販売者以外の登録販売者若しくは同項の登録販売者の別及びその氏名を表示する必要がある。
ｄ　特定販売を行うことについて広告をするときは、第一類医薬品、指定第二類医薬品、第二類医薬品、第三類医薬品等の区分ごとに表示することとされている。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 98
医薬品等適正広告基準に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　漢方処方製剤等で、いわゆる「しばり表現」を省いて広告することは、原則として認められていない。
ｂ　含有する有効成分が医療用医薬品と同じであれば、一般用医薬品でも同じ効能効果がある旨広告することが認められている。
ｃ　使用前・使用後に関わらず図画・写真等を掲げる際には、効能効果等の保証表現となるものは認められない。
ｄ　漢方処方製剤の効能効果は、配合されている個々の生薬成分の作用を挙げて説明することが認められている。

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｃ）
3. （ｂ、ｄ）
4. （ｃ、ｄ）

＜V. 医薬品の適正使用・安全対策＞

問 110

医薬品による副作用等が疑われる場合の報告に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 医薬品安全性情報報告書の記入欄すべてに記入しなければ提出することができない。
2. 報告様式は総合機構ホームページより入手できるほか、医学・薬学関係の専門誌にも掲載されている。
3. 複数の登録販売者が医薬品の販売に携わっていた場合であっても、健康被害の情報に直接接した登録販売者１名から報告されればよい。
4. 医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合であっても報告の対象となりえる。

問 112（※解説のみ修正）

以下の医薬品副作用被害救済制度における救済給付のうち、請求の期限が設定されているものの組み合わせはどれか。

ａ　障害児養育年金
ｂ　医療手当
ｃ　障害年金
ｄ　医療費

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｃ）
3.（ｂ、ｄ）
4.（ｃ、ｄ）

ブロック別模擬試験＜首都圏＞

＜I. 医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問3

医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。

ｂ　新規に開発される医薬品のリスク評価は、臨床試験における安全性の基準であるGLP（Good Laboratory Practice）に準拠して、薬効-薬理試験や一般薬理作用試験などが行われる。

ｃ　医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、単回投与毒性試験、反復投与毒性試験、生殖・発生毒性試験、遺伝毒性試験、がん原性試験、依存性試験、抗原性試験、局所刺激性試験、皮膚感作性試験、皮膚光感作性試験などの毒性試験が厳格に実施されている。

1. ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．誤
2. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正
3. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．誤
4. ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．正
5. ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．正

問6
医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　薬物が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
ｂ　通常、医薬品は複数の薬理作用を併せ持つため、医薬品を使用した場合には、期待される有益な反応（主作用）以外の反応が現れることがある。
ｃ　複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が別の疾病の治療の妨げになることはない。
ｄ　副作用は、容易に異変を自覚できるものであるため、継続して使用する場合であっても、特段の異常が感じられなければ、医薬品の販売等に従事する専門家から医療機関を受診するよう促す必要はない。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．正
4. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正

問12
高齢者の医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　医薬品の使用上の注意等において「高齢者」とは、おおよその目安として60歳以上を指す。
ｂ　肝臓や腎臓の機能が低下している高齢者では、医薬品の作用が強く現れやすい。
ｃ　高齢者は、生理機能が衰えていることはあるが、飲食物を飲み込む力はほとんど弱まっていないため、内服薬の使用にはまったく影響がない。
ｄ　高齢者では、医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすい傾向があるので、医薬品の安全使用の観点からの配慮が重要となることがある。

1. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
5. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

＜III. 主な医薬品とその作用＞

問47

カフェインに関する次の記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

カフェインは、脳に軽い（　a　）状態を引き起こす作用を示す。
妊娠中にカフェインを摂取した場合、吸収されて循環血液中に移行したカフェインの一部は、血液-胎盤関門を通過して胎児に到達することが知られており、胎児の心拍数を（　b　）させる可能性がある。また、摂取されたカフェインの一部は乳汁中にも移行するが、乳児では（　c　）が未発達で、摂取されたカフェインが代謝されるのにより多くの時間を要すため、母乳を与える女性がカフェインを大量に摂取したり、連用した場合には、乳児の体内にカフェインの蓄積を生じ、（　d　）、（　e　）等を引き起こす可能性がある。

1. a．興奮　b．増加　c．肝臓　d．頻脈　e．不眠
2. a．抑制　b．増加　c．腎臓　d．頻脈　e．催眠
3. a．興奮　b．減少　c．肝臓　d．徐脈　e．不眠
4. a．興奮　b．増加　c．腎臓　d．徐脈　e．不眠
5. a．抑制　b．減少　c．肝臓　d．徐脈　e．催眠

問 49

コデインリン酸塩水和物またはジヒドロコデインリン酸塩（以下「コデイン類」）の呼吸抑制の副作用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　コデイン類は呼吸抑制の副作用が問題視され、米国等では 15 歳未満の小児は禁忌とされた。
b　日本でのコデイン類による呼吸抑制のリスクは、欧米と比較して遺伝学的に高いと推定されている。
c　日本では欧米の措置を受け、呼吸抑制の副作用のリスクを可能な限り低減するため、一般用医薬品・医療用医薬品ともに直ちにコデイン類の小児への使用を禁忌とした。

1. a．正　b．正　c．正
2. a．正　b．誤　c．正
3. a．誤　b．正　c．正
4. a．誤　b．正　c．誤
5. a．誤　b．誤　c．誤

問79
尿糖・尿タンパク検査薬の検査結果に影響を与える要因に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　採尿に用いる容器は、糖分やタンパク質が付着していると正確な検査結果が得られないので、清浄な容器が使用される必要がある。
ｂ　採尿のタイミングは、尿糖・尿タンパク同時検査の場合、食後の尿を検体とするが、尿糖が検出された場合には、早朝尿（起床直後の尿）について改めて検査して判断する必要がある。
ｃ　検査薬を、長い間尿に浸していると検出成分が溶け出してしまい、正確な検査結果が得られなくなることがある。

1. ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．正
2. ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．正
3. ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．誤
4. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正
5. ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．誤

＜Ⅳ. 薬事関係法規・制度＞
問91
保健機能食品等の食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　特別用途食品は、消費者庁の許可のマークが付されている。
ｂ　特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する審査を受け、届出をすることが必要である。
ｃ　特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品を総称して「保健機能食品」という。

1. ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．誤
2. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正
3. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．誤
4. ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．誤
5. ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．正

＜V. 医薬品の適正使用・安全対策＞

問104

次のものを主な成分・薬効群とする一般用医薬品の添付文書の使用上の注意で、15歳未満の小児は「使用（服用）しないこと」とされるものとして、正しいものの組合せはどれか。

ａ　メチルエフェドリン塩酸塩

ｂ　サザピリン

ｃ　芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）

ｄ　抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬（睡眠改善薬）

1.（ａ、ｂ）

2.（ａ、ｃ）

3.（ａ、ｄ）

4.（ｂ、ｃ）

5.（ｂ、ｄ）

ブロック別模擬試験＜関東・甲信越＞

＜III. 主な医薬品とその作用＞

問 76

次の殺菌消毒成分のうち、ウイルスに対して不活性効果を示さないものはどれか。

1　エタノール
2　サラシ粉
3　クロルヘキシジングルコン酸塩
4　次亜塩素酸ナトリウム

＜IV. 薬事関係法規・制度＞

問91

保健機能食品等の食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　特別用途食品は、消費者庁の許可のマークが付されている。
ｂ　特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する審査を受け、許可または承認を取得することが必要である。
ｃ　無承認無許可医薬品の摂取によって重篤な健康被害が発生した事例が知られており、厚生労働省、消費者庁や都道府県等では、因果関係が完全に解明されていなくとも、広く一般に対して注意を喚起して健康被害の拡大防止を図るため、製品名等を公表している。

1. ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．正
2. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正
3. ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．誤
4. ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．誤
5. ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．正

問98
医薬品等の広告に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　一般用医薬品の販売広告としては、マスメディアを通じて行われるものが該当するが、店舗において掲示されるポスター等は含まれない。
ｂ　承認前の医薬品については、効能・効果に関する広告のみが認められている。
ｃ　健康食品の広告宣伝で、医薬品的な効能・効果が標榜または暗示されている場合は、医薬品に該当する要素とみなされる。
ｄ　承認されている効能・効果であっても、ある疾病や症状に対して特に優れた効果を有するかのような誤認を与えるおそれがある広告は、不適当とされる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

＜V. 医薬品の適正使用・安全対策＞
問108
総合機構ホームページに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　「緊急安全性情報」や厚生労働省が発行している「医薬品・医療機器等安全性情報」は掲載されていない。
ｂ　医療用医薬品の添付文書情報は掲載されているが、一般用医薬品の添付文書情報は掲載されていない。
ｃ　医薬品・医療機器の安全性に関する情報が発出されたときに、当該ホームページへの掲載と同時に、その情報を電子メールにより配信するサービスを行っており、登録販売者も配信登録をすることができる。
ｄ　当該ホームページは、医療機関や薬局または医薬品の販売業に従事する専門家のみが閲覧することができる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤

ブロック別模擬試験＜北陸・東海＞

＜Ⅰ．医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問 3

医薬品の副作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　体質や体調は副作用とは無関係である。

ｂ　一般用医薬品では、副作用の兆候が現れたときには基本的に使用を中止することとされている。

ｃ　副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりとは限らない。

ｄ　一般用医薬品を継続して使用する場合、異常が感じられなければ特に医療機関を受診する必要はない。

1.（ａ、ｂ）
2.（ｂ、ｃ）
3.（ｃ、ｄ）
4.（ａ、ｄ）

問 11

高齢者と医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強く現れやすい。

ｂ　高齢者の場合、どの程度副作用を生じるリスクが増大しているか、その年齢のみから判断することができる。

ｃ　高齢者によくみられる傾向として、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合や、細かい文字が見えづらく、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合等があり、情報提供や相談対応において、特段の配慮が必要となる。

ｄ　高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

1.　ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．正　　ｄ．誤
2.　ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．正
3.　ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．誤　　ｄ．正
4.　ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．誤
5.　ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．誤　　ｄ．正

＜III. 主な医薬品とその作用＞

問 50

鎮咳去痰成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　延髄の咳嗽（がいそう）中枢に作用し、咳を抑える成分として、メチルエフェドリン塩酸塩がある。

ｂ　延髄の咳嗽中枢に作用する鎮咳成分の中には、モルヒネと同じ基本構造をもち、依存性があるものがある。

ｃ　延髄の咳嗽中枢に作用する鎮咳成分の中には、吸収された成分が胎盤関門を通過して胎児に移行するものがある。

ｄ　気道粘膜からの粘液の分泌を促進させる作用を示す去痰成分として、エチルシステイン塩酸塩がある。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
2. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
5. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．誤

問 51

鎮咳去痰薬に用いられる成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　カルボシステインは、気管支を拡張し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。

ｂ　ジプロフィリンは、気道の炎症を和らげることを期待して用いられる。

ｃ　グアイフェネシンは、気道粘膜からの粘液の分泌を促進し、痰の切れを良くすることを期待して用いられる。

ｄ　キョウニンは、バラ科のアンズの種子を用いた生薬である。

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｃ）
3. （ｂ、ｄ）
4. （ｃ、ｄ）

問 77
消毒薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　クレゾール石鹸液は、すべてのウイルスに対する殺菌消毒作用がある。
ｂ　イソプロパノールは、微生物のタンパク質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類や真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。
ｃ　トリクロルイソシアヌル酸は、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられる。
ｄ　サラシ粉は、皮膚刺激性が弱く、手指・皮膚の消毒に用いられる。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
2. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
5. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．誤

＜Ⅳ. 薬事関係法規・制度＞
問 90
保健機能食品等の食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　特別用途食品は、消費者庁の許可のマークが付されている。
ｂ　特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する申請を行えばよく、許可や承認は必要ない。
ｃ　特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品を総称して「保健機能食品」という。
ｄ　無承認無許可医薬品の摂取によって重篤な健康被害が発生した事例が知られており、厚生労働省、消費者庁や都道府県等では、因果関係が完全に解明されていなくとも、広く一般に対して注意を喚起して健康被害の拡大防止を図るため、製品名等を公表している。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 99
医薬品等適正広告基準に関する記述について、誤っているものはどれか。

1. 医療機関や公的機関が公認、推薦している旨の広告は、一般の生活者の医薬品に対する認識に与える影響が大きいため、原則として不適当とされている。
2. 漢方処方製剤の効能効果は、配合されている個々の生薬成分が相互に作用しているため、それらの構成生薬の作用を個別に挙げて説明することは不適当である。
3. 漢方処方製剤等では、効能効果に一定の前提条件（いわゆる「しばり表現」）が付されていることが多いが、その前提条件を省略して広告を行うことは原則として認められていない。
4. 医薬品の使用前・使用後の図画を用いた広告は保証表現となるため認められないが、写真は事実であるので認められている。

＜V. 医薬品の適正使用・安全対策＞
問 110
総合機構ホームページに記載されている情報に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 医薬品等の製品回収に関する情報
2. 医薬品等の承認情報
3. 厚生労働省が製薬企業等に指示した緊急安全性情報、「使用上の注意」の改訂情報
4. 製造販売業者等が新医薬品の開発状況について発表した資料
5. 製造販売業者等や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情

ブロック別模擬試験＜近畿＞

＜I. 医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問2

医薬品のリスク評価に関する記述について、正しいものはどれか。

1. 動物実験により求められる50%致死量（LD50）は、薬物の有効性の指標として用いられる。
2. 新規に開発される医薬品のリスク評価は、臨床試験における安全性の基準であるGood Laboratory Practice（GLP）に準拠して、薬効-薬理試験や一般薬理作用試験などが行われる。
3. ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的にGood Vigilance Practice（GVP）が制定されている。
4. 医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、単回投与毒性試験、反復投与毒性試験、生殖・発生毒性試験、遺伝毒性試験、がん原性試験、依存性試験、抗原性試験、局所刺激性試験、皮膚感作性試験、皮膚光感作性試験などの毒性試験が厳格に実施されている。

問5

医薬品の副作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　一般用医薬品による副作用は重篤化することはないので、その兆候が現れたとしても、使用を継続したまま様子を見ればよい。

ｂ　登録販売者は、購入者から副作用について相談があったときに、個人情報であるため、副作用の発生の経過を聴いてはいけない。

ｃ　副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりではない。

ｄ　一般用医薬品を継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても医療機関を受診するよう、登録販売者から促していくことも重要である。

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｃ）
3. （ｂ、ｄ）
4. （ｃ、ｄ）

＜III. 主な医薬品とその作用＞

問76

消毒薬とその成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　次亜塩素酸ナトリウムやサラシ粉などの塩素系殺菌消毒成分は、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示すが、皮膚刺激性が強いため、人体の消毒には用いられない。

ｂ　クレゾール石鹸液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対し比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

ｃ　ジクロルイソシアヌル酸ナトリウム等の有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

ｄ　イソプロパノールは、微生物のタンパク質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示し、ウイルスに対する不活性効果はエタノールよりも高い。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問79

一般用検査薬（体外診断用医薬品）に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　尿タンパクを検査する際は、原則として食後の尿を検体とする。

ｂ　尿糖検査の場合、食後1-2時間等、検査薬の使用方法に従って採尿を行う。

ｃ　すべての検査薬は、使用方法を守り、正しく取り扱うことにより擬陰性・擬陽性を完全に排除することができる。

ｄ　妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものである。

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｃ）
3. （ｂ、ｄ）
4. （ｃ、ｄ）

＜Ⅳ. 薬事関係法規・制度＞

問90

保健機能食品等の食品に関する以下の記述について、誤っているものはどれか。

1. 特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する審査を受け、届出をすることが必要である。
2. 特別用途食品は、消費者庁の許可のマークが付されている。
3. 特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品を総称して「保健機能食品」という。
4. 無承認無許可医薬品の摂取によって重篤な健康被害が発生した事例が知られており、厚生労働省、消費者庁や都道府県等では、因果関係が完全に解明されていなくとも、広く一般に対して注意を喚起して健康被害の拡大防止を図るため、製品名等を公表している。

問98

一般用医薬品の販売広告に関する記述について、正しいものはどれか。

1. 店舗販売業の店舗において販売促進のために用いられるチラシは、一般用医薬品の販売広告に含まれない。
2. 承認されている効能効果であっても、ある疾病や症状に対して特に優れた効果を有するかのような誤認を与えるおそれがある広告は、不適当とされる。
3. 承認前の医薬品は、効能または効果に関する広告のみが認められている。
4. 効能・効果等の保証表現となるものであれば、使用前・使用後を示した図面・写真等を掲げることができる。

問100

行政庁の監視指導に関する記述について、誤っているものはどれか。

1. 都道府県知事は、薬事監視員に、薬局開設者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入らせ、従業員その他の関係者に質問させることができる。
2. 都道府県知事は、必要があると認めるときは、薬局開設者又は医薬品の販売業者に対して必要な報告をさせることができる。
3. 都道府県知事は、薬事監視員に、無承認無許可医薬品、不良医薬品又は不正表示医薬品等の疑いのある物品を試験のため必要な最少分量に限り、収去させることができる。
4. 薬事監視員は、薬局の構造設備が基準に適合しない場合、その構造設備の改善を命じることができる。

＜V. 医薬品の適正使用・安全対策＞

問114

総合機構ホームページにおいて、添付文書情報、「医薬品・医療機器等安全性情報」のほかに掲載される一般用医薬品に関連した情報として、誤っているものはどれか。

1. 厚生労働省が製薬企業等に指示した緊急安全性情報
2. 厚生労働省が製薬企業等に指示した「使用上の注意」の改訂情報
3. 医薬品の承認情報
4. 新たに許可を取得した医薬品製造販売業者の情報
5. 医薬品等の製品回収に関する情報

ブロック別模擬試験＜大阪＞

＜I. 医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問 13

高齢者が医薬品を使用する場合の注意事項に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを 1 つ選びなさい。

ａ．一般に、生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が現れにくく、若年時と比べて副作用を生じるリスクが低い。

ｂ．医薬品の使用上の注意等において、「高齢者」という場合には、おおよその目安として 70 歳以上を指している。

ｃ．基礎疾患を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化することもある。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤
4. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正

＜III. 主な医薬品とその作用＞

問 48

鎮咳去痰薬に関する次の記述について、（　　）に入れるべき字句の正しい組み合わせを選びなさい。

〇ノスカピンは、（　ａ　）鎮咳成分とも呼ばれる。
〇ジプロフィリンは、気管支の（　ｂ　）に直接作用して、気管支を拡張させる。
〇グアイフェネシンは、気道粘膜からの粘液の分泌を（　ｃ　）し、痰の切れを良くする。

1. ａ．非麻薬性　ｂ．平滑筋　ｃ．促進
2. ａ．麻薬性　ｂ．骨格筋　ｃ．促進
3. ａ．非麻薬性　ｂ．骨格筋　ｃ．抑制
4. ａ．麻薬性　ｂ．平滑筋　ｃ．抑制
5. ａ．非麻薬性　ｂ．平滑筋　ｃ．抑制

問 49

コデインリン酸塩水和物またはジヒドロコデインリン酸塩（以下「コデイン類」）の呼吸抑制の副作用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ．コデイン類は呼吸抑制の副作用が問題視され、米国等では 15 歳未満の小児は禁忌とされた。
ｂ．日本でのコデイン類による呼吸抑制のリスクは、欧米と比較して遺伝学的に高いと推定されている。
ｃ．日本では欧米の措置を受け、呼吸抑制の副作用のリスクを可能な限り低減するため、一般用医薬品・医療用医薬品ともに直ちにコデイン類の小児への使用を禁忌とした。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．誤

問 70

皮膚に用いる薬に配合される成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを 1 つ選びなさい。

ａ．ステロイド性抗炎症成分は、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎の緩和を目的とするものであり、体の一部分に生じた湿疹・皮膚炎等の一時的な皮膚症状には使用しない。
ｂ．ステロイド性抗炎症成分は、末梢組織の免疫機能を低下させる作用を示すので、水痘（水疱瘡）、みずむし、たむし等又は化膿している患部の症状を悪化させる恐れがあり、使用を避ける必要がある。
ｃ．非ステロイド性抗炎症成分であるケトプロフェンは、まれに重篤な副作用として、アナフィラキシー、接触性皮膚炎、光線過敏症を生じることがある。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正

＜IV. 薬事関係法規・制度＞

問 98（※一部削除）

医薬品医療機器等法及び医薬品等適正広告基準の規定に照らし、次の記述の正誤について、正しい組み合わせを選びなさい。

ａ．在庫処分等の販売側の都合で複数の医薬品をあらかじめ組み合わせて販売することは、不適正な販売方法とされている。

ｂ．一般用医薬品について、医薬関係者が公認、推薦している旨の広告は、事実である限り不適切な広告とされない。

ｃ．医薬品を懸賞や景品として授与することは、~~サンプル品を提供するような場合を除き、~~原則として認められていない。

1. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤
2. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正
4. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤
5. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤

＜V. 医薬品の適正使用・安全対策＞

問 108

「緊急安全性情報」に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを選びなさい。

ａ．A4 サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。

ｂ．一般用医薬品では発出されたことはない。

ｃ．（独）医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されている。

1. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正
4. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤
5. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤

ブロック別模擬試験＜奈良＞

＜I. 医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問 17

高齢者に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを 1 つ選びなさい。

ａ　高齢者に口渇の副作用がある医薬品を販売する時には、誤嚥（ごえん）に注意する必要がある。

ｂ　高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

ｃ　医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として 60 歳以上を指す。

ｄ　一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が現れにくく、若年時と比べて副作用を生じるリスクが低い。

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｃ）
3.（ｂ、ｄ）
4.（ｃ、ｄ）

＜II. 人体の働きと医薬品＞

問 39（※一部削除）

次の記述は、全身的に現れる副作用に関するものである。(　　)にあてはまる字句として、正しいものを 1 つ選びなさい。

（　　）は、38℃以上の高熱を伴って広範囲の皮膚に発赤が生じ、全身の 10%以上に火傷様の水疱（すいほう）、皮膚の剥離（はくり）、びらん等が認められ、かつ、口唇の発赤・びらん、眼の充血等の症状を伴う病態で、最初に報告をした医師の名前にちなんでライエル症候群とも呼ばれる。

1. アナフィラキシー~~様症状~~
2. 無菌性髄膜炎
3. ギラン・バレー症候群
4. 中毒性表皮壊死融解症

＜III. 主な医薬品とその作用＞

問 64（※解説のみ修正）

次の医薬品成分のうち、抗コリン作用によって鼻汁分泌を抑えるはたらきをするものを 1 つ選びなさい。

1. ヨウ化イソプロパミド
2. トラネキサム酸
3. ブロムヘキシン塩酸塩
4. ナファゾリン塩酸塩
5. デキストロメトルファン臭化水素酸塩

問 67（※解説のみ修正）

眼科用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを 1 つ選びなさい。

ａ　コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行うべきでない。

ｂ　点眼薬の適応症状とその副作用を区別することが難しい場合があるため、一定期間使用して症状の改善が見られない場合には漫然と使用を継続せずに、専門家に相談すること。

ｃ　点眼薬の 1 滴の薬液量は、結膜嚢（のう）の容積より小さいため、一度に何滴も点眼すると効果的である。

ｄ　点眼薬は、通常、無菌的に製造されているため、他の人と共用しても何ら支障がない。

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｃ）
3.（ｂ、ｄ）
4.（ｃ、ｄ）

問 78
尿糖・尿タンパク検査等に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを 1 つ選びなさい。

ａ　原則として検体は、尿糖検査の場合は食後（1－2 時間など、検査薬の使用方法に従う）の尿、尿タンパク検査の場合は早朝尿（起床直後の尿）とする。
ｂ　尿中のタンパク質に異常を生じる要因は、腎機能障害によるものとして腎炎やネフローゼ症候群、尿路に異常が生じたことによるものとして尿路感染症、尿路結石、膀胱炎などがある。
ｃ　尿糖値に異常を生じる要因は、一般に高血糖と結びつけてとらえられることが多く、腎性糖尿や妊娠糖尿も高血糖を伴う。
ｄ　通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性から弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｃ）
3.（ｂ、ｄ）
4.（ｃ、ｄ）

＜IV. 薬事関係法規・制度＞
問 89
保健機能食品等の食品に関する以下の記述について、誤っているものはどれか。

1.　特別用途食品には、消費者庁の許可のマークが付されている。
2.　特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品を総称して「保健機能食品」という。
3.　特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する審査を受け、届出をすることが必要である。
4.　無承認無許可医薬品の摂取によって重篤な健康被害が発生した事例が知られており、厚生労働省、消費者庁や都道府県等では、因果関係が完全に解明されていなくとも、広く一般に対して注意を喚起して健康被害の拡大防止を図るため、製品名等を公表している。

問 90

医薬品医療機器等法第 69 条の規定により、都道府県知事等が必要があると認めるときに薬事監視員に行わせることができる行為に関する記述のうち、誤っているものを 1 つ選びなさい。

1. 医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入らせ、帳簿書類を検査させることができる。
2. 法違反が明らかとなった者を検挙させることができる。
3. 医薬品の販売業者に対して、必要な報告をさせることができる。
4. 不良医薬品や不正表示医薬品の疑いのある物を、試験のために必要な最少分量に限り収去させることができる。

問 100

医薬品の広告に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを 1 つ選びなさい。

ａ 薬局、店舗販売業、配置販売業において販売促進のために用いるチラシ、ポスター、ディスプレー等は、法の規制対象外である。

ｂ 医薬品の使用前、使用後に関わらず図画・写真等を掲げる際には、効果・効能の保証表現となるものは認められない。

ｃ チラシの同一紙面に医薬品と化粧品をあわせて掲載すること自体は問題ないが、化粧品に医薬品的な効果・効能があるような誤認を与えるおそれのある広告表現は、認められない。

ｄ 承認前の医薬品については、製造販売業者が厚生労働大臣の許可を受けた場合に限り、その医薬品の名称、効能・効果に関する広告を行うことができる。

1. （ａ、ｂ）
2. （ａ、ｃ）
3. （ｂ、ｃ）
4. （ｂ、ｄ）

ブロック別模擬試験＜中国＞

＜I. 医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問 2

医薬品のリスク評価に関する記述について、正しいものはどれか。

1. 医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。
2. 新規に開発される医薬品のリスク評価は、臨床試験における安全性の基準である GLP（Good Laboratory Practice）に準拠して、薬効-薬理試験や一般薬理作用試験などが行われる。
3. 投与量と効果・毒性の関係は、薬物用量を増加させるに伴い、「無作用量」から、最小中毒量を経て「治療量」に至る。
4. ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的に GVP（Good Vigilance Practice ）が制定されている。

問10

高齢者に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品の使用上の注意等において、高齢者とはおおよその目安として65歳以上を指す。
ｂ　一般に高齢者は生理機能が衰えつつあるので、医薬品の副作用を生じにくい。
ｃ　高齢者は、生理機能が衰えていることはあるが、飲食物を飲み込む力はほとんど弱まっていないため、内服薬の使用には影響がない。
ｄ　高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用により、基礎疾患が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

1. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．正
3. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．正　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤

＜III. 主な医薬品とその作用＞

問47

眠気を防ぐ薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1. カフェインは、脳に軽い鎮静状態を引き起こす作用を示す。
2. カフェインは、腎臓での水分の再吸収を促進するとともに、膀胱括約筋を緊張させる働きがあり、尿量の減少をもたらす。
3. 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして500mg、1日摂取量ではカフェインとして1000mgが上限とされている。
4. 成長期にある小児の発育には睡眠が重要であり、眠気防止薬に小児向けの製品はない。

問 77

殺菌消毒成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1. エタノールは、アルコール分が微生物のタンパク質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
2. 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用がある。
3. クレゾール石鹸液は、結核菌を含む一般細菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示すが、真菌類に対する殺菌消毒作用はない。
4. サラシ粉は、強い還元力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用がある。

問79
一般用検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　尿糖・尿タンパク検査薬は、その結果をもって直ちに疾患の有無や種類を判断することはできない。
ｂ　通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
ｃ　尿糖・尿タンパク同時検査の場合、就寝前の尿を検体とする。
ｄ　尿糖検査の場合、食後1～2時間等、検査薬の使用方法に従って採尿を行う。尿タンパクの場合、激しい運動の直後の検査は避ける必要がある。

1. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

＜IV. 薬事関係法規・制度＞
問89
保健機能食品等の食品に関する以下の記述について、誤っているものはどれか。

1. 特別用途食品は、消費者庁の許可のマークが付されている。
2. 特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品を総称して「保健機能食品」という。
3. 特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する審査を受け、届出をすることが必要である。
4. 無承認無許可医薬品の摂取によって重篤な健康被害が発生した事例が知られており、厚生労働省、消費者庁や都道府県等では、因果関係が完全に解明されていなくとも、広く一般に対して注意を喚起して健康被害の拡大防止を図るため、製品名等を公表している。

問98
一般用医薬品の広告に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　一般用医薬品と同じ有効成分を含有する医療用医薬品の効能効果をそのまま標榜することも、承認されている内容を正確に反映した広告といえない。
ｂ　医薬品医療機器等法第66条（誇大広告等）及び第68条（承認前の医薬品等の広告の禁止）の規定は、広告等の依頼主だけでなく、その広告等に関与するすべての人が対象となる。
ｃ　漢方処方製剤の効能効果は、配合されている個々の生薬成分の作用を挙げて説明することが望ましい。
ｄ　チラシやパンフレット等の同一紙面に、医薬品と、食品、化粧品、雑貨類等の医薬品ではない製品を併せて掲載してはならない。

1. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
4. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
5. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤

問 99（※一部削除）
一般用医薬品の販売方法に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　キャラクターグッズ等の景品類を提供して一般用医薬品を販売することは、いかなる場合であっても認められない。
ｂ　一般用医薬品を景品として授与することは、~~サンプル品を提供するような場合を除き、~~原則として認められていない。
ｃ　一般用医薬品を組み合わせて販売する場合は、購入者に対して情報提供を十分に行える程度の範囲内であって、かつ、組み合わせることに合理性が認められるものでなければならない。
ｄ　店舗販売業者は、許可を受けた店舗以外の出張所に、販売又は授与の目的で一般用医薬品を貯蔵することができる。

1. （ａ、ｂ）
2. （ｂ、ｃ）
3. （ａ、ｄ）
4. （ｃ、ｄ）

＜V. 医薬品の適正使用・安全対策＞

問110

総合機構ホームページにおいて、一般用医薬品に関連した情報として掲載されている事項について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　緊急安全性情報、「使用上の注意」の改訂情報
ｂ　一般用医薬品の販売高
ｃ　医薬品の承認情報
ｄ　医薬品等の製品回収に関する情報

1. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正
2. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．正　ｄ．誤
5. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正

ブロック別模擬試験＜四国＞

＜I. 医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問 2

医薬品のリスク評価に関する以下の記述について、正しいものはどれか。

1. 動物実験では LD50 を求めることが可能であるので、薬物の安全性の指標として用いられる。
2. 新規に開発される医薬品のリスク評価は、臨床試験における安全性の基準である Good Laboratory Practice（GLP）に準拠して、薬効-薬理試験や一般薬理作用試験などが行われる。
3. 医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。
4. ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的に Good Vigilance Practice（ GVP）が制定されている。

問 3

医薬品の副作用に関する次の記述について、適切であるものの組み合わせを選びなさい。

ａ 医薬品を人に通常用いられる量で使用した場合に発現する、有害で意図された反応が副作用である。

ｂ 副作用は、眠気や口渇等の比較的よく見られるものから、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものまで様々である。

ｃ 副作用を避けるためにも、医薬品を継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても医療機関を受診するように、医薬品の販売等に従事する専門家から促すことも重要である。

ｄ 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべて解明されているため、十分注意して適正に使用された場合では副作用は起こらない。

1.（ａ、ｂ）
2.（ｂ、ｃ）
3.（ｃ、ｄ）
4.（ａ、ｄ）

問 13
高齢者への医薬品の使用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを選びなさい。

ａ　医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として 75 歳以上を指す。
ｂ　医薬品の副作用で口渇を生じた場合、誤嚥を誘発しやすくなる。
ｃ　基礎疾患を抱えていることが多いので、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化する場合があることに注意が必要である。
ｄ　一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、とくに、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が現れにくく、若年時と比べて副作用を生じるリスクが低くなる。

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｄ）
3.（ｂ、ｃ）
4.（ｃ、ｄ）

＜III. 主な医薬品とその作用＞
問 45
眠気防止薬に含まれるカフェインに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを選びなさい。

ａ　乳児でのカフェインの血中濃度が最高血中濃度の半分に低減するのに要する時間は、肝臓が未発達のため通常の成人と比べて短い。
ｂ　カフェインは、胃液の分泌を亢進させる作用があり、副作用として食欲不振、悪心、嘔吐が現れることがある。
ｃ　カフェインは、腎臓での水分の再吸収を抑制する働きがある。
ｄ　眠気防止薬におけるカフェインの 1 日摂取量はカフェインとして 200mg が上限とされており、過量に摂取されると、中枢神経系や循環器系への作用が強く現れるおそれがある。

1.　ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．正　　ｄ．誤
2.　ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．誤　　ｄ．正
3.　ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．誤
4.　ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．正　　ｄ．誤
5.　ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．誤　　ｄ．正

問 66（※一部削除）
下の成分を含む鼻炎用点鼻薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを選びなさい。

100mL 中
クロモグリク酸ナトリウム・・・1g
クロルフェニラミンマレイン酸塩・・・0.25g
ナファゾリン塩酸塩・・・0.025g

ａ　過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招いて、鼻づまりがひどくなりやすい。
ｂ　3 日間使用して症状の改善がみられないような場合には、アレルギー以外の原因による可能性が考えられる。
ｃ　局所に適用されるものであり、成分が鼻粘膜を通っている血管から吸収されても全身的な影響をうけることはない。
ｄ　まれに重篤な副作用として、アナフィラキシー~~様症状~~を生じることがある。その他の副作用として鼻出血や頭痛が現れることがある。

1. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．誤　ｄ．正
2. ａ．正　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．正
3. ａ．正　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．誤
4. ａ．誤　ｂ．正　ｃ．誤　ｄ．誤
5. ａ．誤　ｂ．誤　ｃ．正　ｄ．正

問 68
外皮用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを選びなさい。

ａ　外皮用薬は、表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされている。
ｂ　貼付剤やパップ剤は、患部やその周囲に汗や汚れ等が付着した状態で貼付すると、有効成分の浸透性が低下するほか、剥がれやすくもなるため十分な効果が得られない。
ｃ　スプレー剤やエアゾール剤は、患部に十分な薬剤が浸透するように至近距離から噴霧し、連続して噴霧する時間は 15 秒以上とすることが望ましい。
ｄ　塗り薬（軟膏剤、クリーム剤）は、容器から直接指に取り、患部に塗布したあと、また指に取ることを繰り返して使用することが望ましい。

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｄ）
3.（ｂ、ｃ）
4.（ｃ、ｄ）

＜IV. 薬事関係法規・制度＞
問 90
保健機能食品等の食品に関する以下の記述について、誤っているものはどれか。

1. 特別用途食品は、消費者庁の許可のマークが付されている。
2. 特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する審査を受け、届出をすることが必要である。
3. 特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品を総称して「保健機能食品」という。
4. 無承認無許可医薬品の摂取によって重篤な健康被害が発生した事例が知られており、厚生労働省、消費者庁や都道府県等では、因果関係が完全に解明されていなくとも、広く一般に対して注意を喚起して健康被害の拡大防止を図るため、製品名等を公表している。

問 99（※一部削除）
医薬品の販売方法等に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを選びなさい。

ａ　消費者に医薬品を懸賞や景品として授与することは、~~サンプル品を提供するような場合を除き、~~原則として認められていない。
ｂ　購入者に対して情報提供を十分に行える場合は、組み合わせた個々の医薬品の外箱に記載された法に基づく法定表示が、組み合わせ販売のため使用される容器の外から明瞭に見えるようになっている必要はない。
ｃ　医療用医薬品では、複数の医薬品の組み合わせ販売は認められていないが、一般用医薬品では、在庫処分等の目的で組み合わせ販売することは認められている。
ｄ　購入者が購入した医薬品を業として他者に提供することが推定される場合は、無許可販売につながるおそれがあることから、薬剤師又は登録販売者は、積極的に事情を尋ねるなど慎重に対応し、状況によっては販売を差し控えることが望ましい。

1.　ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．誤　　ｄ．正
2.　ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．誤
3.　ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．誤　　ｄ．正
4.　ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．正　　ｄ．誤
5.　ａ．誤　　ｂ．誤　　ｃ．誤　　ｄ．正

＜V. 医薬品の適正使用・安全対策＞
問 108
総合機構ホームページにて入手できる情報を「正」、入手できない情報を「誤」として、正誤の正しい組み合わせを選びなさい。

ａ　医薬品・医療機器等安全性情報
ｂ　企業や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報
ｃ　医薬品の承認情報
ｄ　医薬品等の製品回収に関する情報

1.　ａ．正　　ｂ．正　　ｃ．正　　ｄ．正
2.　ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．正　　ｄ．誤
3.　ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．正
4.　ａ．誤　　ｂ．正　　ｃ．誤　　ｄ．正
5.　ａ．正　　ｂ．誤　　ｃ．正　　ｄ．誤

問 111
次の記述は、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度における医療関係者からの報告の仕方に関するものである。正しいものの組み合わせを選びなさい。

ａ　使用上の注意に記載されていない副作用は、報告する対象となりえない。
ｂ　副作用と医薬品の因果関係が必ずしも明確でない場合であっても、報告の対象となりえる。
ｃ　医薬品の過量使用や誤用等による健康被害は、報告の対象となりえない。
ｄ　報告様式は総合機構ホームページより入手できる。また、報告に際しては、報告様式の記入欄すべてに記入がなされる必要はない。

1.（ａ、ｂ）
2.（ａ、ｃ）
3.（ｂ、ｄ）
4.（ｃ、ｄ）

ブロック別模擬試験＜九州・沖縄＞

＜I. 医薬品に共通する特性と基本的な知識＞

問 2

医薬品に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 医薬品を継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても医療機関を受診するよう、医薬品の販売等に従事する専門家から促していくことも重要である。
2. 一般用医薬品には、習慣性・依存性がある成分を含んでいるものはない。
3. 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。
4. 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

＜II. 人体の働きと医薬品＞

問 38（※解説のみ修正）

医薬品の副作用に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 副交感神経系を抑制する医薬品の使用によって、排尿困難や尿閉が起こることがある。多くの場合、原因となった医薬品の使用を中止することにより速やかに改善するが、医療機関において処置を要することもある。
2. 薬疹はあらゆる医薬品で起きる可能性があり、また、同じ医薬品でも生じる発疹型は様々である。
3. 一度軽度の副作用を経験していれば、再度同種の医薬品を使用しても重篤な副作用を生じることはない。
4. 医薬品によっては、一過性の副作用として、瞳孔の散大（散瞳）による異常な眩しさ、目のかすみ等の症状が現れることがあるので、散瞳を生じうる成分が配合された医薬品を使用した後は、乗物や機械類の運転操作を避ける必要がある。

＜III. 主な医薬品とその作用＞

問 55（※解説のみ修正）

尿糖・尿タンパク検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア　尿糖の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とする。

イ　通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性－弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

ウ　出始めの尿を採取して検査がなされることが望ましい。

エ　尿糖・尿タンパク検査薬は、尿中の糖やタンパク質の有無を調べるものであり、その結果をもって直ちに疾患の有無や種類を判断することはできない。

1. ア．正　イ．正　ウ．正　エ．正
2. ア．正　イ．正　ウ．誤　エ．正
3. ア．正　イ．誤　ウ．正　エ．誤
4. ア．誤　イ．正　ウ．正　エ．誤
5. ア．誤　イ．誤　ウ．誤　エ．正

問 64（※解説のみ修正）

以下の呼吸器官に作用する薬の成分のうち、気管支を拡げる成分の組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア　ジヒドロコデインリン酸塩

イ　メチルエフェドリン塩酸塩

ウ　グアイフェネシン

エ　メトキシフェナミン塩酸塩

1.（ア、イ）
2.（ア、ウ）
3.（イ、エ）
4.（ウ、エ）

＜Ⅳ. 薬事関係法規・制度＞

問 93

保健機能食品等の食品に関する以下の記述について、誤っているものはどれか。一つ選びなさい。

1. 特別用途食品は、消費者庁の許可のマークが付されている。
2. 特定保健用食品として特定の保健の用途を表示するには、個別に生理的機能や特定の保健機能を示す有効性や安全性等に関する審査を受け、届出をすることが必要である。
3. 特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品を総称して「保健機能食品」という。
4. 無承認無許可医薬品の摂取によって重篤な健康被害が発生した事例が知られており、厚生労働省、消費者庁や都道府県等では、因果関係が完全に解明されていなくとも、広く一般に対して注意を喚起して健康被害の拡大防止を図るため、製品名等を公表している。

問 99（※一部削除）

一般用医薬品の販売方法に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選びなさい。

ア　医薬品に、キャラクターグッズ等の景品類を提供して販売することは、不当景品類及び不当表示防止法の限度内であっても認められていない。

イ　医薬品を懸賞や景品として授与することは、~~サンプル品を提供するような場合を除き、~~原則として認められていない。

ウ　在庫処分の目的で、医薬品を組み合わせて販売することは、認められていない。

エ　効能効果が重複するような医薬品を組み合わせて販売することは、購入者の利便性向上のため推奨されている。

1. ア．正　イ．正　ウ．誤　エ．正
2. ア．正　イ．誤　ウ．正　エ．誤
3. ア．誤　イ．正　ウ．正　エ．正
4. ア．誤　イ．正　ウ．正　エ．誤
5. ア．誤　イ．誤　ウ．誤　エ．正